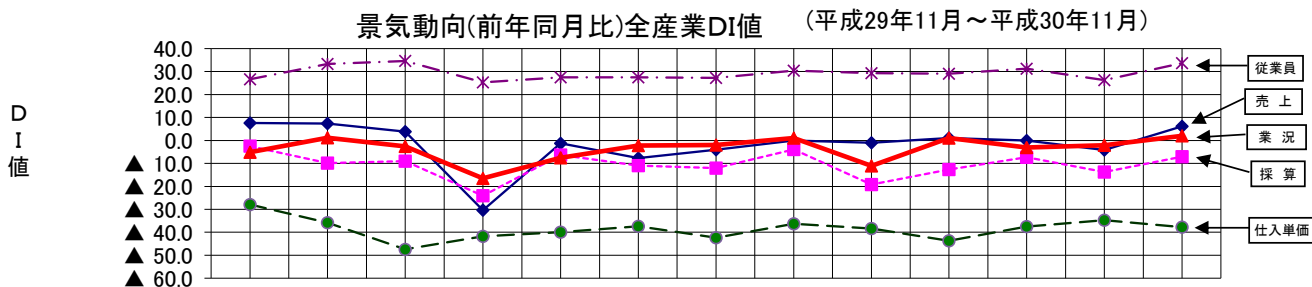


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 11月分

【11月の概要】 景況感はやや好転の動き、先行きも改善の見通し

10月に比べると、売上DIと業況DIはマイナスからプラスに転じた。仕入単価DIはマイナス幅がやや増加しているが、採算DIのマイナス幅は減少している。従業員DIのプラス幅は増加した。人手不足と原材料費など仕入コスト増が続き、幅広い業種に影響を及ぼしているが、景況感はやや好転を示す動きとなっている。

先行きについては、10月に比べ、売上DIはプラス幅が増加し、業況DIもマイナスからプラスに転じた。採算DIと仕入単価DIのマイナス幅も減少し、従業員DIのプラス幅はやや減少している。先行きは全体的に改善傾向を示しており、業況改善の期待感が伺える見通しとなっている。



	平成29年 11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	平成30年 11月
◆ 売上	7.6	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0	1.0	0.0	▲ 4.2	6.1
■ 採算	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3	▲ 13.7	▲ 7.1
▲ 業況	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1	▲ 2.1	2.0
● 仕入単価	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 34.7	▲ 37.8
* 従業員	26.6	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4	29.3	29.1	31.3	26.3	33.7

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIはマイナスからプラス6.1ポイントに転じ、業況DIもマイナスからプラス2.0ポイントに転じた。採算DIは6.6ポイントマイナス幅が減少した。仕入単価DIは3.1ポイントマイナス幅が増加した。従業員DIは7.4ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
10月	2.1	▲ 15.8	▲ 34.7	29.5	▲ 3.2
11月	5.1	▲ 8.2	▲ 29.6	27.6	2.0

先行きは、売上DIは3.0ポイントプラス幅が増加し、業況DIもマイナスからプラス2.0ポイントに転じた。採算DIは7.6ポイントマイナス幅が減少し、仕入単価DIは5.1ポイントマイナス幅が減少した。従業員DIは1.9ポイントプラス幅が減少した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装工事	人手不足からくる人件費単価アップがあり、改修工事が多い。
	総合建設	景況感は良好であるが、先行き不透明。県内大型物件が少なく苦戦。今後の資機材の上昇が懸念される。
製造業	金属製品	例年通り現場工事が降雪前の繁忙期に入っているが、協力会社、技術者の人員不足が前年よりさらに厳しくなっている。
	食品	人件費、原材料費、物流費など値上げラッシュとなっている。
卸売業	機械部品	製品価格の上昇が止まらずに利益が出にくい状況が続いている。
	木材	資材の動きはまずまずだが、建築着工は力強さを感じられない。
小売業	家具・日用品	売上は低迷している。経費削減は「限り」がある。
サービス業	広告宣伝	売上減少に伴い採算も悪化する見込み。同業他社もこの時期は毎年売上が停滞するようだ。
	ホテル	社員の人員不足は深刻な問題である。11月はこの業界の稼ぎ時であるが、先は苦しくなる。
	不動産	急激に土地売買物件、店舗閉鎖物件が新潟市内で増加してきた。